

## テレビとともに 60 年

前総務委員会 専門員

しおみ まさゆき  
塩見 政幸

平成 25 年は、我が国のテレビ放送開始 60 周年の節目の年であった。たまたま、筆者も同じく還暦の年を迎えたので、テレビとともに生きた 60 年（実は 50 年程度）を振り返り、テレビの創設期にまつわる思い出等を述べてみたい。

さて、テレビ放送開始直後は、テレビ受像機の価格が高く、その普及が進まなかった。そこで、盛り場等に街頭テレビが設置され、多くの群衆がその前に集まったそうである。やがて、経済成長と価格の低下により、一般家庭にテレビが普及し始め、また昭和 34 年（1959 年）の皇太子殿下（現在の天皇陛下）の御成婚によってその普及に拍車がかかったと言われている。

小学校の低学年の頃であろうか、我が家にテレビが来た日は今も鮮明に記憶に残っている。ただ、その前後、子ども達は近所にテレビの入った家があるとテレビを見せてもらうこともあった。その頃は、近所に子どもがあふれ、高度成長時代であったため、親は忙しく働いていたという思い出がある。現在、昭和 30 年代あるいは 1960 年代を懐かしむ人が多いようだが、日本が元気であると多くの人が実感した時代であったと思う。

ところで、日本のカラー放送は、昭和 35 年（1960 年）に始まったが、一般の家庭ではカラー受像機はなかった（カラーの受信契約数が 1000 万台を超え、白黒テレビの契約数を逆転したのは、昭和 47 年（1972 年）のことである。）。昭和 39 年（1964 年）の東京オリンピックは、その一部の競技はカラー放送されたが、これをカラーで見た人は少ないと思われる。ただ、オリンピックを機に、白黒でも画質が落ちないようなカメラ、スローモーション VTR など新しいテレビ技術が開発されたそうである。

当然、我が家でも白黒テレビでオリンピックを見ていたが、バレーボールの女子（「東洋の魔女」と言われた。）が金メダルを取り、国中が盛り上がっていた記憶がある。事実、決勝戦の視聴率は 66.8% に上り、スポーツ中継としては歴代最高を記録した。そして、閉会式では、打ち解けた選手の行進を見ながらも、日本で再びオリンピックが開催されることはないのかというやや寂しい思いもあった。しかし、今回、2020 年に再度東京オリンピックが行われることになり、本当にうれしい思いである。再び、国中が熱狂する東京オリンピックになってほしいと思う。そして、放送技術は、オリンピックがある度に向上しているが、2020 年のオリンピックではスーパーハイビジョン 8K の臨場感あふれる映像を見ることができるよう期待したい。

筆者の経験からも、テレビと社会との関わりは深いものがあり、一技術であるが、この技術は、社会を変えたものであると思う。今後もテレビが社会のために役立つ技術であり続けるよう祈念して、60 年の回顧の結びとしたい。